

報告

近畿作育談話会シンポジウム（第130回例会） 『作物の根の機能開発と制御』の報告

大阪府立大学農学部 大門弘幸

本誌第2巻2号でも案内のあった表記シンポジウムが、8月6日(金)に京都大学農学部において開催された。日本作物学会近畿支部および日本育種学会近畿地域談話会は共同で年3回の例会（近畿作育談話会）を行っており、毎年夏に開かれる例会をシンポジウムとし、会員内外から話題提供をして頂き、自由な意見交換の場としている。今回も試験場、普及所、大学、企業、生産者などから様々な立場で「根」に興味を持っている人たち約100名の参加のもと、活発な論議がなされた。その概要を簡単に紹介させて頂く。

最初に大阪府立大学付属研究所の長谷川博氏が「作物の根における養分吸収の遺伝・育種学的研究－特に硝酸イオンについて－」と題して、イネおよびオオムギにおける硝酸イオン吸収遺伝子の検索と窒素代謝との関連について紹介された。次に滋賀県農業試験場の長谷川清善氏が「滋賀県の輪換畑におけるコムギ栽培の諸問題－特に排水不良下の根の活力維持について－」と題して、琵琶湖周辺平坦地域の細粒グライ土圃場（排水不良田）における輪換コムギおよびダイズの収量、品質について根の活力との関連で紹介された。次に愛知教育大学の北野英己氏が「イネの根形質に関する突然変異体と発育遺伝学的解析」と題して、幼根を欠如する変異体をはじめとする根に関する変異体とその遺伝様式や矮性遺伝子の根に対する作用性について紹介された。次に大阪府立農林技術センターの西垣誠二氏が「イネの直播栽培の作期と生育収量」と題して、大阪府下における湛水土壤中直播栽培の現状を報告され、さらに各地の試験場における直播と根の関係に関する研究の紹介をされた。最後に名古屋大学の山内章氏が「イネ科作物の根系構造と根諸形質の遺伝」と題して、側根の機能的重要性を示唆するとともに、養水分の吸収、輸送に関する根の諸形質の遺伝について紹介された。

上述のように、対象を主にイネ科作物に限定し、形態学、生態生理学的な基礎的な分野から生産現場における問題点まで幅広い話題提供がなされた。5題の話題が提供されてから神戸大学の巽二郎氏の座長で総合討論が行われた。地下部の研究の進展を遅らせている理由の一つである実験方法に対するいくつかの質問を皮切に、根の分化、伸長を制御する要因、様々な形態をもつそれぞれの根の機能、根の寿命と養水分吸収の関係、直播水稻の根系構造の国内外の品種間の差異等々、参考した人たちそれぞれの経験をもとに活発な討論がなされた。シンポジウム終了後懇親会が開催され、本テーマでのシンポジウム開催を評価して頂く声も聞くことができた。シンポジウムの開催をお手伝いした一人としてほっとした。なお、当日は新幹線が事故で不通になったにもかかわらず、《根の研究会》からは東京大学の森田氏も参加され討論に加わって頂いた。

各話題提供者の講演内容および総合討論をまとめたものを本年度末に刊行される『近畿作物・育種研究 Vol.39』に収録するので、詳しい内容についてはそれを参照して頂きたい。
(連絡先:堺市学園町1-1大阪府立大学農学部 森川利信 TEL0722-52-1161)